

令和5年度 生徒指導重点指定校 報告書 上温品小学校

1 学校の課題

※データ等を基にした学校の課題

- 長期欠席者（令和4年度 9人）及び不登校児童数（令和4年度 3人）であること。
- 年間に特別な指導（令和4年度 13件）があること。
- 遅刻する児童が多く、学校からの連絡または家庭訪問が必要なこと。（令和4年9人）
- 家庭環境や生活習慣の不安定さから、集中力を持続しながら学習することが難しい児童が各学年に複数人おり、継続的な指導が必要であること。
- 校外での問題行動（暴力、器物破損、放火、万引き、迷惑行為など）を起こす児童がいること。児童相談所、警察との連携をおこなっていること。

2 重点目標

自己存在感を実感できる学級づくりをめざして
～予防的生徒指導の取組を通して（2年次）～

3 具体的な取組

※1の課題解決に向け、具体的に取り組む項目

ア 生徒指導の実践・評価サイクル

○生徒指導の実践

ハイパーQU や担任を中心とした教職員による児童の見取りから生徒指導主事へ情報を集約し、課題を整理した上で、取組を進めることをした。長期欠席者、不登校児童については、担任と生徒指導主事が本人及び保護者に関わり合い、思いに寄り添った対応を進めてきた。遅刻、不登校児童への連絡は、生徒指導主事が行い、電話連絡、家庭訪問を行った。ふれあいひろばで活動する児童や教室での学習に難しさがある児童については、生徒指導主事、ふれあいひろば推進員が、各児童の実態に合った対応をした。

暴力行為の発端となる休憩時間には、管理職を含めた多くの教職員が、校庭を中心とした見守りを行い、トラブルの芽が小さいうちに止めに入ることを、全職員で確認し実践した。

○評価

- ・長期欠席児童数 令和4年度との比較
- ・不登校児童数 令和4年度との比較
- ・暴力行為 令和4年度との比較

以上のほか、生徒指導全般について、途中にチェックを行い、改善を加えてきた。

イ いじめ・不登校等予防的生徒指導の実施

- ハイパーQU の分析と効果的な活用による児童の実態把握
- ライフスキル教育の実践（全学年）
- OMLB 教育の実践（5・6年）
- あいさつ運動の実施（全学級）
- 花たばの言葉の実施

ウ 開かれた学校づくりの推進

- 学校運営協議会の設置と開催（年間4回の開催）
- 地域人材の積極的活用
- 学校ホームページを活用した積極的な情報発信（授業日には毎日更新）

エ 組織的な生徒指導体制を構築するために必要な校内研修会の実施

- ハイパーQUの効果的な活用のため、専門家を講師とした研修会の実施
- 生徒指導に関する全体研修会の実施

7月25日	講師	元広島市立井口小学校	校長	中山 和一	先生
9月28日	講師	生徒指導課	指導主事	上藺 貴史	先生
10月19日	講師	生徒指導課	指導主事	上藺 貴史	先生
1月26日	講師	生徒指導課	指導主事	上藺 貴史	先生
- 児童理解研修
- SU（ステップアップ）研修 他

4 月別実施内容

- | | |
|-----|---|
| 4月 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体研修会
（生徒指導規定、生徒指導マニュアル「上温品スタンダード」の共通理解、SC・SSW
のかかわりについて、ライフスキル教育の指導計画） ・SU研修（学級開き） ・児童理解支援研修（児童の実態確認と課題の整理） |
| 5月 | <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動開始（高学年から実施、年間各学級2回） ・児童理解支援研修（各児童の課題と職員のかかわり方について共通理解） ・全体研修会（生活アンケートの活用の仕方、面談の仕方） |
| 6月 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハイパーQU（1回目）実施 |
| 7月 | <ul style="list-style-type: none"> ・花たばの言葉計画 |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハイパーQU結果分析 ・全体研修会（ハイパーQUの特徴・実施方法・分析方法・活用方法） ・全体研修（児童理解 ハイパーQU分析結果による学級の情報を共有） ・全体研修（児童理解 児童の実態把握とつきたい力の共有） |
| 9月 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学級の花たばの言葉 発表・掲示 ・校内全体研修会（3学年授業） ・ハイパーQUの分析結果を活用した学級づくりの実践 |
| 10月 | <ul style="list-style-type: none"> ・SU研修（ライフスキル教育 中間確認） ・校内全体研修会（5学年授業） |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> ・MLB教育 授業実践（5・6年生） |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハイパーQU（2回目）実施 |
| 1月 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハイパーQU結果分析 |
| 2月 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体研修会（本年度の取組の検証と次年度の方向性決定） |
| 3月 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体研修会（次年度の取組についての共通理解） |

5 成果

児童

○令和4年度よりも長期欠席児童数は微減した。(9人→8人(1月末現在))

●令和4年度よりも不登校児童数は増加した。(3人→5人(1月末現在))

●令和4年度よりも暴力行為の件数は増加した。(0件→17件(1月末現在))

☐ 暴力に対して感度を上げて、小さな暴力でも件数に数えることにした。小さな暴力でも見逃さない風土が学校全体に広がってきている。

○昨年度、「ふれあいひろば」で過ごしていた児童(心の悩み)は5人以上いたが、その児童は、全て教室で過ごすことができるようになった。

○これまで3年連続続いていた学級崩壊がなくなった。臨時の保護者懇談会も行わなかった。

○令和4年度よりも教室を出て、一人で徘徊する児童が減少した。居場所が見つかった児童がいた。

☐ 専任の生徒指導主事と担任との連携により、早期発見と保護者連絡を行い、思いを共有しながら取組を進めてきたことで、保護者から対応の不信や何度も説明を求められる案件が減った。

教職員

○ハイパーQの活用の仕方について研修を行ったことにより、分析の視点が明確になり、担任等の見取りと合わせた活用がなされた。

○講師を招聘して「支持的風土の醸成された学級づくり」や「自己肯定感を実感できる学級づくり」などの学級づくりについての研修会を行うことで、児童一人一人を大切にしたい学級づくりがなされ児童が主役で活躍できる学級づくりができ始めた。

6 次年度への課題

長期欠席児童数、不登校児童数が増加してきているが、学級集団としてのまとまりはできつつある。個々の児童を見ると、学級での人間関係や学習面での不安が徐々に解消され、学校が目指している「笑顔が広がる学校」に少しずつ近づいている。しかしながら、不登校児童が、5人と増えている。そして、今年度、「ふれあいひろば」を活用した児童が15人と増えている。教室での学習が難しくなり、別室で学習したりクールダウンする時間をとったりすることが必要な児童が、どの学年にも複数人いるが、そのほとんどが、甘えによる教室から逃避して利用しているように思える。「ふれあいひろば」のルール作りを行い、各学級が居場所であることを、「自己存在感を実感できる学級づくり」を通して取り組んでいかなければならない。また、昨年度転入してきた児童による暴力行為が改善されていない。引き続き、指導を繰り返していきたい。

今年度、校外での問題行動についての対応が必要な事案が連続したため、警察、児童相談所などの関係機関と連携して指導を行ってきた。今後も、未然防止を含め、関係機関と連携を取りながら継続的な指導が必要であると考えている。

7 今後の取組

来年度は、重点目標を「認め合い、学び合い、笑顔が広がる学校～予防的生徒指導の取組を通して～（3年次）」とし、昨年度まで取り組んできた予防的生徒指導の取組を特別活動の理念を多く入れて児童の役割と活躍がある学校にしていきたい。その実現のために、研修部と生徒指導部が取組を共有しながら進め、生徒指導主事は、情報の共有を確実に行うこと、個に応じた支援をチームで対応することに重点を置き、課題解決にあたっていく。

今年度、成果が見られた学級としての高まりの中に長期欠席者や「ふれあいひろば」の利用児童をどれだけ戻していくかが課題となる。生徒指導主事と担任の連携、児童の意識改革、保護者の思いに寄り添った丁寧な対応を継続していく。

校外での問題行動については、引き続き警察や児童相談所などとの連携を継続する。保護者との関係を大切にしながら、週末や長期休業前のタイミングをとらえ、未然防止のための指導を行っていく。